

令和 4 年度

前期日程

# 英語問題

## (注 意)

1. 問題冊子及び解答用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号は、解答用紙の受験番号記入欄及び受験番号マーク欄に正確に記入・マークすること。なお、マークは該当する数字を塗りつぶすこと。
3. 問題冊子のページ数は、表紙を除き 8 ページである。脱落している場合は直ちに申し出ること。
4. 解答用紙は 1 枚である。
5. 解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。枠からはみ出してはいけない。
6. 問題冊子の余白は、適宜下書きに使用してよい。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
8. 問題冊子は持ち帰ること。

I 次の英文(A)と(B)を読み、それぞれの下線部の意味を日本語で表しなさい。

**著作権処理中のため、公開できません**

II 次の英文を読んで、以下の設問に答えなさい。

**著作権処理中のため、公開できません**

**著作権処理中のため、公開できません**

## 著作権処理中のため、公開できません

設問(1) 下線部(i)~(v)の語句の本文中での意味に最も近いものを、(イ)~(ニ)から1つ選び、記号で答えなさい。

(i) marvels

(イ) concepts      (ロ) innovations      (ハ) outcomes      (ニ) wonders

(ii) kernels

(イ) breeds      (ロ) points      (ハ) seeds      (ニ) waves

(iii) dexterity

(イ) elegance      (ロ) manipulation      (ハ) skillfulness      (ニ) strength

(iv) execute

(イ) imitate      (ロ) perform      (ハ) relax      (ニ) select

(v) exceptional

(イ) advanced      (ロ) characteristic  
(ハ) major      (ニ) remarkable

設問(2) 下線部(A) the most delicate and most complex tool は具体的には何を指しているか、日本語で答えなさい。

設問(3) 第2段落で著者は人の指について「糸で吊るされた操り人形のように」と述べていますが、これは人の指がどのような仕組みで動くことを表したものが、本文中から読み取り、45字程度の日本語で答えなさい。句読点も1字に数えます。

設問(4) 下線部(B) This の指す内容を日本語で答えなさい。

設問(5) 本文の中で類人猿の手の能力を示すものとして言及されているものを下記の(イ)~(ホ)から2つ選び、記号で答えなさい。

- (イ) Holding a fist so that the thumb lies on top of and lends support to other fingers
- (ロ) Holding an object and pressing it into the palm at right angles to the forearm
- (ハ) Holding an object between the tip of the thumb and other fingers
- (ニ) Holding enemies and dangerous animals at arm's length
- (ホ) Holding tiny things using no sensory input from the fingertips

設問(6) 世界を知覚するにあたって指が目の代わりになることを古生物学者の Geerat Vermeij 氏の例はどのように示しているか、本文の内容に即して65字程度の日本語で説明しなさい。句読点も1字に数えます。

Ⅲ 科学技術の発展によって、機械やAI(人工知能)が人の代わりをすることが増えてきました。製造業においてはかなり以前から、また近年では運輸や接客などのサービス業でも自動化が進んでいます。このように社会が大きく変わろうとしている中であって、どうしても機械やAIが取って代わることができない、もしくは取って代わってほしくない你认为のはどのような仕事ですか。具体的な仕事を1つ挙げ、その理由を80語程度の英文で述べなさい。

IV 次の日本文(A)と(B)のそれぞれの下線部の意味を英語で表しなさい。ただし、(B)では文学部の志願者は(イ)を、文学部以外の学部の志願者は(ロ)を選んで解答しなさい。

(A) (すべての学部の志願者)

不思議なことに、宇宙について知れば知るほど、宇宙は「偶然という名の奇跡」に溢れている、ということに驚かされます。

例えば、現在の宇宙が持っているいろいろな条件が整わないと、私たちは誕生しえませんでした。この条件は偶然にそろったものともいえますし、一方でその偶然が起こる確率は奇跡的というほど低いのも事実です。

(本間希樹, 2021. 『宇宙の奇跡を科学する』 扶桑社)

(B)

(イ) (文学部の志願者 ※文学部以外の学部の志願者は次の(ロ)を解答すること)

人と人が関わり合いを持つ場合、それが望んだ関わり合いであっても、損得が生まれたり、予想外の出来事で気まづくなったりすることがあります。会話も人と人との関わり合いなので、悪意がなくても、話し手や聞き手が不愉快な思いをすることはあります。不注意から出たちょっとした失言が元で、ケンカになったり、極端な場合は仕事を辞めざるをえなくなったりします。もちろん、会話を通して親しくなり、信頼関係を深めることもたくさんありますが、他者と関わり合いを持つ以上、相手を傷つける可能性は常にあるのです。

(時本真吾, 2020. 『あいまいな会話はなぜ成立するのか』 岩波書店 より一部改変)

(ロ) (文学部以外の学部の志願者)

仕事で進めているプロジェクトの進行がはかばかしくない。仮にうまく進められても、期待していたほどの結果は得られないかもしれない。そのような場

(次頁につづく)

合に思い切って退却することは、選択肢として十分ありえます。

頂上を目指して山に登っているとき、雲行きが怪しくなれば、事故が起きないよう退却する勇気が必要です。それと同じで、進路でも仕事でも進めていることを途中で見切るのには、そこに関わる人の時間やお金を無駄にしないためには必要なことです。

撤退する勇気や決断は、ギリシャ・ローマ時代からリーダーにとっての重要な要素でもあります。

(丹羽宇一郎, 2021. 『人間の器』 幻冬舎)